

まだ手にとらねど源左衛門徳扇が貝よりもやさしくて袂より出たるならんと、

白ぎくを貝の身にせん袖のうら略下

〔鶉衣續篇上〕田子庵記

こゝに田子庵と號するいはれば此家に愛翫せる蛸貝の盃ありてそれを田子浦とよぶ故也とぞ、そはさらば難波にきこえたる浮瀬屋の出店かといふ人も有ぬべし、そもや浦の名をとりて盃の名とし、亦盃の名をとりて庵の名とす略下

〔雅筵醉狂集六〕播磨のなにかし帆たて貝を盃にして銘と狂歌を望ければつりばりと名をつけ、

歌を書てやる、

酒の舟歌や詩をつるはりまがたさかづきとせし貝も帆立て、

木葉盃

〔古事記中應神〕天皇即以髮長比賣賜于其御子徳仁所賜狀者天皇聞着豊明之日於髮長比賣令握大御酒柏賜其太子、

〔古事記傳三十二〕大御酒柏オホミカヅノは酒を受けて飲ム葉なり略中抑酒を柏に受て飲事はいとく上代の

わざなりしが定まれる禮となりて、豊明などには必其事ありしなり、

〔古事記下仁徳〕自此後時太后石之賣命為將豊樂而於採御綱柏幸行木國之間天皇婚八田若郎女於是

太后御綱柏積盈御船還幸之時略中於是太后大恨怒載其御船之御綱柏者悉投棄於海故號其地

謂御津前也略中此時之後將為豊樂之時氏氏之女等皆參朝略中於是太后石之日賣命自取大御

酒柏賜諸氏氏之女等、

〔皇大神宮儀式帳〕次齋宮主神司諸司官人等其儻畢人別直會酒采然男官儻畢、

〔儀式三〕踐祚大嘗祭儀

次神服男七十二人著青摺布彩并日蔭蓋各執酒柏所謂酒柏者神祇官一人率神服男女等到膳屋